



# サイジヤナル

月刊  
4-5-6  
第463号

日本サイ科学会 令和4年5月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会  
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

<b>東 北</b> 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908-FAX 022 (274) 0097	<b>中 部</b> 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	<b>北 陸</b> 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミスト金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	<b>関 西</b> 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0569-FAX 06 (6624) 5061	<b>九 州</b> 〒814-0015 福岡市早良区 室見1-1-3-2F 伽 羅 ☎ 070 (7782) 6216-FAX 092 (846) 8200
---	--	--	---	---

## 六月通常総会・本部例会のお知らせ

※会員は午後1時30分から通常総会、一般の方は午後2時からの本部例会からご参加願います。

日時 令和4年6月19日(日)

午後1時30分～2時 通常総会

午後2時10分～4時30分 講演

会場 北とびあ7階701会議室  
交通 J R京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端

(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員二千円(当日入会可)  
一般三千円 学生一千円

### 講演

私が体験し、学んだスピリチュアルヒーリングの真実

講師 平田進一郎氏

講演者(平田進一郎)が、1984年に初めて体験したスピリチュアルヒーリングの真実を、映像と解説を交えて、ご披露いたします。

欧米では、Faith Healing とも

呼ばれる霊性レベルの治癒は、後にホリスティックヒーリングと呼ばれるようになりました。

ホリスティックとは、「全体的な」という語源から、医学、栄養学をはじめ、人の健康は、「心、霊、体」の全てを総合的な観点で、いわば「物心両面の調和」を目指すことを重要視する健康概念のことです。

「霊性(スピリット)とは、何か?精神と物質は、つながっている科学的根拠。癒しのメカニズム。治癒を促すための感情状態の決め手。プラシーボとノーシーボが生体に影響するメカニズム」等、科学とスピリチュアリティを融合させた言葉で、お話し致します。

※平田進一郎氏は米国、英国では公にも認められている「ホリスティックヒーリング」を米国で学び、博士号も取られて、栄養学も含めたオリジナルなヒーリングを広めておられます。サイ科学とも関係する貴重な御講演となりますので、会員の皆様はご友人知人をお誘いして、是非ご参加願います。

## 今月号の記事

◎六月通常総会・本部例会のお知らせ

◎御寄付御礼

◎事務局からのお知らせ

◎七月本部例会のお知らせと募集

◎十月第30回全国大会発表者募集

◎関西日本サイ科学会5月研究会のお知らせ

◎第12回スピリチュアル研究分科会のお知らせ

◎第46回宇宙生命研究分科会予告

◎令和2年9月本部例会の報告Ⅱ

◎第四六四回関西サイ科学会報告

◎印度旅行のみやげ話Ⅲ(サイの広場第1号アーカイブ)

◎関英男先生関連書籍の販売

◎本部例会ビデオ映像販売

◎「念写」の方法による「意識の物質化」

◎「サイ科学(会)との出会い」を振り返って

◎平田進一郎氏のプロフィール P.h.D.(理学博士)。平田ホリスティック教育財団理事長。

ホリスティックカレッジ・オプ・ジャパン校長。

1960年、東京都生まれ。米国ペーパーダイン大学にて国際ビジネス学専攻。Foundation of International Spiritual Center (フイリピンの施設)に渡航し、心霊体のホリスティックヒーリングの概念とメソッドを学ぶ。米国AIHTで修士。博士号取得。2003年から米国「Transformation 酵素栄養療法クリニック」日本支部代表に就任後、2010年より現職に従事する。

著書 『いま、栄養学が変わる 健康に自分らしさを活かす「ホリスティック栄養学」(現代書林)』『ホリスティックヒーリング』最強の治療法は、あなたの中にある(ブックウエイ)、『HEAL 奇跡の治療力』2017年米国制作ドキュメンタリー映画他多数。

※5月の本部例会は通常のお休みとなります。

「心を科学する博物館」と一般の御寄付御礼

(4 / 18 受領分まで)

金二十五万円也	匿 名 様
金五万一千円也	浪平 博人 様
金二万一千円也	久保田昌治 様
金二万円也	鴨川 裕司 様
金二万円也	佐藤千恵子 様
金一万一千円也	原口 和恵 様
金一万円也	七沢 久子 様
金一万円也	千里 弘 様
金五千円也	森安 政仁 様
金五千円也	宮前 昭子 様
金二千円也	小牧昭一郎 様
金二千円也	ダブプロウゆかり 様
金二千円也	村上 一夫 様
金一千円也	小林 信正 様
金一千円也	石川 允朗 様
金一千円也	飛田 洋子 様
金一千円也	占部 浩一 様
金一千円也	山田 真理 様
金一千円也	佐藤ひろ子 様
金一千円也	濱田 敏博 様
金一千円也	牧野 邦子 様
金一千円也	奥村 八郎 様
金一千円也	友寄 光子 様
金一千円也	鉄野 秀三 様

◎事務局からのお知らせ

今回正会員・維持会員に、通常総会出欠用返信ハガキを同封致しましたので、6月12日(日)までにご投函願います。

また日本サイ科学会の会員メンバーリスト(以下解説)に未登録で、登録希望の方は、「会員メンバーリスト登録希望」と書いて、受信用の個人アドレスを記入して、以下のアドレスに送信願います。  
office21@psji.mail-box.ne.jp

ML(メンバーリスト)とは？  
日本サイ科学会の事務局も含めた会員同士の情報交換の仕組みです。

本人の希望により、メールアドレス(パソコン用、携帯用どちらでも)がメンバーリストに登録されます(手続きは事務局が行います)、ML用のメールアドレスをお知らせします。

自分が会員の皆さんにお知らせしたい「サイ」関係の情報(自分の著書の出版、学会発表、テレビ出演、あるいは他のサイ関係の学会・研究会の予告、「サイ」に関する旬な情報等がありましたら、

その内容をML用のメールアドレスに送信しますと、瞬時にMLに登録されている会員全員にそのメールが届きます。

その情報に対しての、返信も同じメールアドレスに送信しますと全員に読まれます。

マナーとしましては、個人や団体の批判や攻撃、特定の商品やサービス、会社の宣伝にあたるものはお控え願います。また、添付ファイルはウイルスが潜む可能性がありますので、禁止となります。

※メンバーリストでの事務局からのお知らせに対して、個人的に質問したいときは、ML用のメールアドレスではなく、日本サイ科学会のメールアドレスに返信願います。office21@psji.mail-box.ne.jp

七月本部例会のお知らせ

不思議体験談、写真映像発表・討論会(発表者募集中)

日時 令和4年7月18日(月・祝)

午後1時30分～4時30分  
 会場 北とびあ7階701会議室  
 交通 J R京浜東北線王子駅下車  
 徒歩2分、ホーム最北端  
 (赤羽寄り)の階段を下り改  
 札口を出て見える高層ビル  
 会費 一千元(会員・一般とも)

皆様がこれまでに体験した不思議な現象や不思議な写真・映像を参加者の皆様に紹介しながら、参加者全員で解釈や討論をして、共有する会です。

UFOと宇宙人、オーブや心霊写真、地震雲など地震前兆現象、それらに関わる動画等、是非日本サイ科学会事務局に事前に「プリント写真」あるいはUSBメモリの郵送、あるいはメール添付ファイルで送信いただければ、有り難いです。(送られたものは返却できませんので、コピーをお願い致します。)

スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。

特別講師はおりませんが、参加者の皆様の自由な発言でいつも楽

しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。



### 2022年日本サイ科学会 第30回全国大会発表募集

毎年の重要な行事である全国大会が、今年も10月に開催されます。会員の研究発表+シンポジウムが予定されておりですが、会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

今年のシンポジウムのテーマは「あの世とサイ」ということで、宗教や心霊科学にとって主要なテーマとなります。死後の世界について、サイ科学的な観点からのアプローチと解釈を検討していく所存です。

会員の研究発表では、シンポジウムのテーマに関してでも、そうでなくてもOKであり、これまでの研究での新しい発見、現在もし

くは近いうちにデータ取りをしてまとめたこと、偶発現象(UFO、心霊現象等)の目撃と原因の推測・解明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構ですので、ご自分の考えや研究成果をまとめ、発表して頂きたいと存じます。

7月末までにタイトルと簡単な内容(200字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただきます。通りましたら8月31日までに原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思えます。原稿の書式は後でお知らせ致します。

※全国大会での発表はできないが、論文集「サイ科学」の資料として、発表したい原稿も募集致します。

論文集「サイ科学2021」末頁の「サイ科学の投稿審査規定」をよく読んで、応募願います。



### 関西日本サイ科学会 五月研究集会のお知らせ

見えない世界のリアルな能表  
 現とサイ科学の接点を探る

講師 山中 雅志氏  
やまなか まさゆき

(観世流能楽師、山中能舞台主宰)

日時 令和4年5月14日(土)

13:30～17:00(13:00開場)

会場・阿倍王子神社 参集殿(2F)

・阪堺電車上町線「東天下茶屋」

駅下車徒歩5分

・大阪メトロ御堂筋線「昭和町」

駅から徒歩15分

・まつむし音楽堂から阿倍野筋沿

いに徒歩10分

会費 会員及び同伴の家族二千元

一般三千元 学生一千元

終了後に講師を囲んでの懇親会

(参加費3500円、会場未定)

※懇親会への参加は、当日受付に

てお申し出ください。

※参加のお申込みは、関西日本サイ

科学会公式サイトの「参加予

約」フォームからお願い致し

ます。

<http://ladies.jp/kos/ken.html#ken463>

幽玄の世界をあつかう「能」は、600年以上の命脈を保つ古典芸能。演目の大半が靈魂など「幽（かく）れた世界」を扱っている点で特異ですが、見えない世界を扱うサイ科学と共通するところもあります。

今回は、観世流シテ方能楽師、山中雅志氏を迎え、見えない世界についてのお話をうかがい、サイ科学との接点を探りたいとかがえています。多数のご参加をお待ちしております。

## 第12回スピリチュアル研究分科会

日時 令和4年5月29日(日)  
午後1時30分～4時30分  
会場 北とびあ9階902号室  
交通 J R 京浜東北線王子駅下車  
徒歩2分、ホーム最北端

(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 会員一千元(当日入会可)

一般二千元 学生一千元

\*当日会場にて直接、現金にてお支払い下さい。

テーマ「特異能力の検証と開発法」

講師 小林永周氏

講演内容

古今東西、預言者や超能力者、シャーマン等、いわゆる霊視、霊聴、霊言や予知、予言などを行う特異能力者はピンからキリまで存在しています。

かつて私はテレビ局の制作現場に携わって、内外の能力者330余名を取材、各人の能力を確かめ、実験、検証を試みて60年余、このメカニズムの究明に取り組んできました。

本来、誰でも備わっていると思われる潜在的感性を蘇らせて、能力開発法的一端を披露、実践、併せてインチキ能力者に騙されないための心得についてお話ししたいと思います。

## 第46回宇宙生命研究分科会

第16回 UFO\*オーブシンポジウム

テーマ「宇宙人革命(其の2)」

日時 令和4年7月23日(土)

午前10時～午後4時30分

会場 北とびあ7階第2研修室  
交通 J R 京浜東北線王子駅下車

徒歩2分、ホーム最北端

(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

参加費 一般二千元

サイ・サトル会員、学生、60歳以上一千元

宇宙人0円(但し受付の要認可)

※事前参加申し込みは不要です。

※当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい。

京都大学でも宇宙人との遭遇に備え「宇宙倫理学」講座を今年度から開始、アカデミズムでも宇宙人問題が認められている今、昨年に引き続き、「宇宙人革命」をテーマに更に深めて探求。現在、宇

宙人革命は如何に進行しているか？

UFO\*宇宙人との接触者を中心に、日本サイ科学会ならではの、超能力問題も考え合わせながら、学んでゆこう！ 皆さん、是非いらしてくださいね？

## 令和2年9月本部例会報告Ⅱ

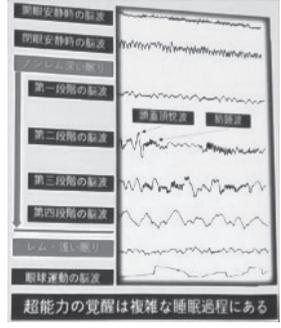
多能性幹意識の誘導による超能力の覚醒とシーター波の脳波(iPT意識)

講師 山崎正男氏

第一段階から第四段階は、徐々に深い眠りに進行するノンレム睡眠で時間は90分、次に来るのがレム睡眠で10分、睡眠の1サイクルは、ノンレムとレムで約100分間になる。

健常者の睡眠はこれを一晚に4回から5回繰り返す。しかしながらレム睡眠は1回目10分、2回目20分、3回目30分と徐々に長くなる。レム睡眠とシーター波は相関

関係にあるので【感覚外知覚】は朝方覚醒する傾向にある。



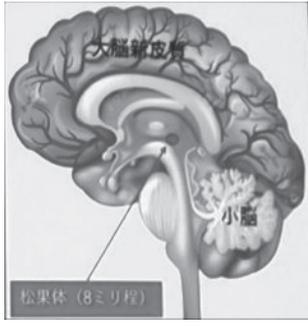
松果体は脊椎動物の脳内器官であり、頭蓋骨の真下の間脳の背側に位置する。松果体は頭蓋骨や皮膚組織などに覆われているが、光受容細胞は感度が良く光を感知できる。哺乳類を除く多くの脊椎動物の松果体は、松果体光受容細胞、神経節細胞、グリア細胞などから構成される。

暗闇の中で【感覚外知覚】が覚醒すると、ピカッと一瞬だけ強い光を感じる。しかし光を感じる網膜は、センサーである感光細胞とそれを受ける感覚細胞から作られている。眼の場合だけは脳の細胞そのものが神経節として網膜の近くに出てきている。

感光細胞のほとんどは桿状をしており桿体細胞と呼ばれる、しか

し桿体細胞は白黒を感じるだけである。ところが網膜の中心部には少数の錐の先の形をした錐体細胞があつて色彩を感じる事ができる。ただ錐体細胞は感度が低く明るい昼間のような場所では働かない。

したがって暗闇の中でも色彩を感じる透視や予知、体外離脱のビジョンは、網膜を介さず松果体の受容体細胞が直接見ていることになる。それは【感覚外知覚】の松果体が第三の目として機能していた証である。アメリカCIAが過去に超能力の研究のために、2000匹のペンギンの松果体を剖検していたという知られざる事実がある。



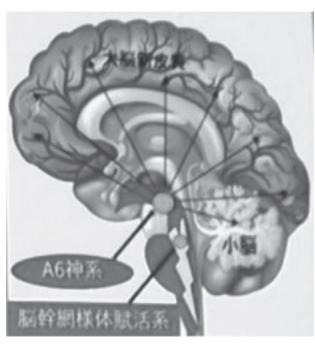
1949年、アメリカの脳生理学者ホイレス・マグリーンは動物の

脳の破壊試験から、意識がどこから生まれるかを実証した。マグリーンは脳幹の中央部に神経が網のよう分布した脳幹網様体を発見した。網様体の上部が動物の活動を促進するので網様体賦活系、下部が抑制的に働くので網様体抑制系と命名した。マグリーンは網様体賦活系によって、人間の脳が賦活され、意識が維持されると考えた。

その後、脳幹から全脳へ向かうA・B系無髄神経が見つかり、A系神経は賦活系、B系神経は抑制系に働くことを発見する。A系の中でもA6神経は脳内に広く分布する最大の神経で最も強力な覚醒神経である。A6神経は覚醒のほかに、学習、鎮痛、排尿、血液循環、ホルモン系のコントロール、体温維持など、さまざまな機能を支配している重要な神経である。

そしてA6神経はレム睡眠を生む神経でもある。レム睡眠はシート波を顕現し、シート波は【感覚外知覚】を醸成する。逆説的には、禅の瞑想などで網様体抑制系を優位に働かせ、網様体賦活系最大のA6神経の活動を極限まで抑制すれば脳死近似的な脳波になる。するとシート波から【感覚外知覚】(超

能力)が覚醒する。また左右の耳から異なる周波数(差異5ヘルツ)の音を流し、脳波を強制的にシート波に誘導すれば超能力が覚醒する。ほかにも前述のシート波に誘導する多様な要素がある。



アインシュタインは、1905年「特殊相対性理論」「光子論」「ブラウン運動」の三つの革新的な理論を発表した。なかでも「光子論」は、1921年ノーベル物理学賞を受賞する。「特殊相対性理論」は、それまで別々に扱われていた「時間」と「空間」を一つの「時空」として統一した。

1915~1916年にかけて発表した「一般相対性理論」は、それまで「中身」と「入れ物」として別々に扱われていた「物質」と「時空」を統一した。つまり、「空

間「物質」のすべてをまとめ上げた理論である。

脳波をシータ波にして空間を眺めると「光の舞」を視認できる。「光の舞」とは、空間に微細な光子が無数出現し、アインシュタイン理論の「ブラウン運動」をすることである。微細な光子は、重力の影響を受けることなく泳ぐように四方八方に広がり、次々と現れては消える「光の舞」を表演する。

その「光の舞」を意念【意識力】により早く動かしたり、遅く動かしたりコントロールできる。したがって【意識力】は空間の微粒子、分子、原子に伝播している証となる。ブラウン運動をする「光の舞」現象を量子論では「励起」という。

アインシュタインの脳は死後50年を経過し剖検された。天才の脳は特殊であると思われていたが、一般の人の脳よりわずかに小さく、ごく普通の脳だった。これらの剖検からアインシュタインの脳は特殊ではなく、IQのレベルがとて高いといえる。IQが高いとシータ波になり、クリエイティブなアイデアは瞬時にひらめく。

2500年前、35歳のゴータマ・

シッタッタは、菩提樹の下で悟りを聞いた。一介の人間にすぎないゴータマ・シッタッタが、仏教の開祖、釈迦牟尼ブッタとなったのはなぜか、と疑問符が付く。修行仲間は、シャカ族出身の沙門をゴータマと呼んだ。出家修行者のゴータマは六年間に渡り各地で苦行を続ける。苦行はインド的な修行形態であり、インドの地に発生したほとんどの宗教が、苦行を採用し、推奨している。苦行とは梵語（サンスクリット）で「タパス」という。「タパス」とは本来「熱的物質」をいう。苦行の実践によって人はこの「熱的物質」を自己の肉体内部に蓄積できる、と古代インド人はそう信じていた。

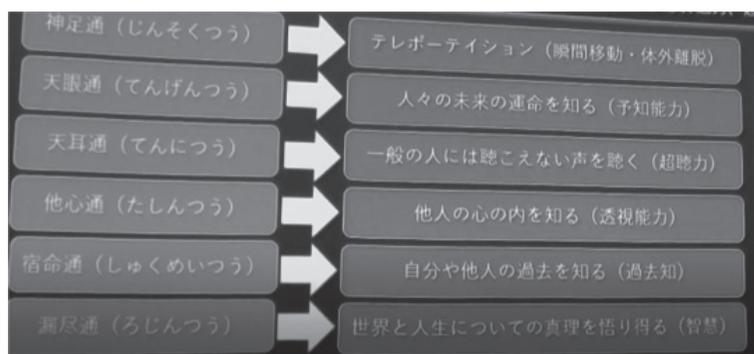
そしてこの「熱的物質」は【神通力】、「超能力」をもたらず。したがって苦行で求めているのは【神通力】に他ならない。沙門ゴータマも苦行の大道を行く、夏は焼けつくような陽光に身をさらし、冬は凍てつく川で沐浴する。食事は極限まで減らし、一日ゴマー粒、コメ1粒という断食をし、生理現象の限界を遥かに超えていた。

体はミイラのごとく痩せ細り、

肋骨は蛇腹のごとく、足は川辺の鷺の脚のように細くなり、ゴータマの風貌は屍そのものだった。しかし、いっこうに悟りは得られなかった。ゴータマは自問自答し苦行は無駄、無意味なものと知り、それを放棄し新天地を求めて幾日も歩き続けると、一本の菩提樹を見つける。ゴータマは菩提樹を背に東向きに座り瞑想に入る。ある満月の夜、深い瞑想に入ると【眉間にまばゆいばかりの閃光が走る】。その光がスイッチとなり、ゴータマは悟りを開いて満願成就する。それからゴータマは【悟りを開いた人】＝【ブッタ】となり、まっとうな中道を悟る。

しかし、インドの修行者は絶対的禁欲を強いられる。それは女性と接し精を漏らすと「熱的物質」は消滅すると信じられていたからだ。しかしながら気功の鍛錬で内気が高まれば、真気、腎気、精気が旺盛になり体は熱くなる。したがってインドの「熱的物質」とは、中医学の気であるのは明白である。さらには気功は4000年、仏教は2500年という歴史的背景からも「熱的物質」と気は同種のもので確信する。中医学では、

気は宇宙万物根源の物質と定義されている。



一介の人間にすぎない沙門ゴータマは、菩提樹の下で悟りを開いてブッタとなり、六つの神通力を得た。神通力とは今でいう超能力のことである。科学も医学もない時代、摩訶不思議な現象を引き起

こすブツタを人々は神のごとく崇拜した。しかしながら脳波がシータ波になれば誰でも神通力、超能力は覚醒する。

禅を極めた名僧は悟りの境地を円相図にする因習がある。円相とは悟りの境地を視覚化した円い図である。

悟りの境地は深遠であり、口伝は誤解を招く恐れがある。また悟りの境地を正しく記述するのは困難を極める。そこで名僧は悟りの証として円相図を残す。修行僧が禅を極めれば名僧同様に円相を知覚する。それを比較すれば悟りを得たと確信する。しかし、悟りは六神通も含まれる。こうして仏教の悟りは、脈々と伝承されている。これが実体験に基づく確信的悟りの真相である。しかしながら人類は、AI（人工知能）という高度の革新的技術を開発しているが、2500年前のブツタの悟りの謎は、いまだ説明されていない。

仏教の阿弥陀如来像は臨終者の元に【紫雲】に乗って来迎し極楽に導くとされる。



しかしその教えは、白隠禅師も体験した紫のトンネルを【紫雲】に比喩した宗教的逸話である。白隠は禅の修行中【感覚外知覚】に

より、紫のトンネルを知覚し悟りを開いた。その証として紫の円相図を残そうとしたが、江戸時代は、絵の具など色彩の具材がなく、白隠は紫の替わりに青墨で円相図を描いたのである。

信仰や宗教、哲学は人間を深く洞察する。白隠の円相図は、超能力者、禅僧、気功師と同じ知覚的体験であり、深い瞑想状態に入り、シータ波から変性意識になれば【感覚外知覚】が覚醒する。しかし円相は能力者だけでなく、一般のひともし瞑想の実践により、シータ波になれば、イメージ図のような紫の「時空連続体（ワームホール）」を知覚する。

紫のワームホールは、悟りを開いた釈迦牟尼ブツタ・弘法大師空海・道元禅師・白隠禅師・超能力者・熟練気功師などに共通する【感覚外知覚】であり、この延長上に予知、透視などさまざまなサイ能力の顕現がある。これらの実体験から2500年前の釈迦牟尼ブツタの悟りと超能力の顕現は「エビデンス」がある。

※紫色のワームホールのCG動画が紹介される

アインシュタインは1915年、一般相対性理論で物質とエネルギーが時空を歪めると仮定すれば重力の影響を記述できるとした。それは太陽のそばを通る光を測定すると光の進路がわずかに曲がっていることで証明された。

1948年、クルト・ゲーデルは、アインシュタインの一般相対論の場の方程式を解として、すべての物質が回転している宇宙を表すものを発見した。ゲーデルの理論は、一般相対性理論がタイムトラベルを許容する証明になっていることから、アインシュタインを動揺させる。

1957年、ヒュー・エヴェレットが提唱した『多世界解釈』の論文は、「この世には異なる時空の宇宙が無数に並行して存在する」というものであり、賛否あつたがいまではパラレルワールドとして、多くの科学者の支持を得ている。

2001年、イギリスの理論宇宙物理学者ステイヴン・ホーキング博士は「ワームホールには注意せよ。そこから何が出てくるかについてわからないですから」と述べている。ワームホールを作るためには時空を曲げる必要がある

り、負の質量、負のエネルギー密度を持つ物質が必要になる。

一般相対性理論においては、時空はそこにある【重い物体】のみならず、そこにある【エネルギー】によってもゆがめられる。しかし、シータ波になれば【感覚外知覚】が覚醒し、多次元宇宙を繋ぐ紫のワームホールが顕現する。この【感覚外知覚】に人類の秘密が隠されていたのである。



イベント・ホライズン・テレスコープの研究チームは、2019年4月10日、巨大ブラックホールとその影の存在を初めて、画像で直接証明することができた、と発表した。今回撮影されたのは、おとめ座銀河団の楕円銀河M87の中心に位置する巨大なブラックホール（直径1000億km）である。地球から5500万光年の距離に

あり質量は太陽の65倍にも及ぶ。

1916年、静止状態のブラックホールの存在を「予言」したのはドイツの天文学者シュバルツシルトである。そして1934年、ブラックホールが自転している場合に周囲の時空がどんな構造になるかを発見したのが、ニュージールランドの数学名ロイ・カーであり、通称カー・ブラックホールと呼ばれる。カー・ブラックホールは、理論上内部の物質は脱出可能であり、シュバルツシルトのブラックホールは脱出不可能である。1957年、量子重力研究の先駆者、ジョン・ホイラーはリングの虫食い穴に由来するトンネルをワームホールと命名した。リングの表面のある一点から裏側に行くには円周の半分を移動する必要があるが、虫が中を掘り進むと短い距離の移動で済む、というものである。これを広大な宇宙空間に当てはめれば光よりも早く移動できる。ブラックホールとホワイトホールを繋ぐのがワームホールである。

「ブラックホール」という言葉を最初に使ったのは、1964年アメリカの科学誌サイエンス・ニュー

ースレターに記事を書いたジャーナリスト、アン・ユイイングだった。量子論では高次元における重力は非常に強いので、余剰次元の広がり程度の小さなスケールでなら、マイクロブラックホールはできやすくなる。したがって周囲のいたるところに存在するマイクロワームホールに【感覚外知覚】でテレポーテーションすれば、さまざまなサイ現象（超能力）が可能になる。

（直径1000億kmのブラックホール）



浦島太郎のおとぎ話は、海辺で亀を助けた報恩として漁師の浦島太郎が龍宮城に連れていかれ、乙姫らのおもてなしを受ける。帰郷しようとした浦島太郎は、「開けてはならない」と念を押されつつ玉手箱を渡される。帰り着いた故

郷では、龍宮で過ごしたと感じたより遙かに長い年月が経っており、失意の余り玉手箱を開けてしまった浦島太郎は、白髪の老人に化するというものである。

万葉集の長歌「詠水江浦嶋子一首」として浦島太郎の原型というべき内容が歌われている。

この浦島太郎の物語はシータ波から感覚外知覚が覚醒すれば体験できるものである。アインシュタインの特殊相対性理論では、光速度に近い速度で運動している系の時間の進み方は、静止している観測者に比べて遅くなる。たとえば光速度の99パーセントで進む宇宙船内の時計は静止系の約1/7の速さで進むため、宇宙旅行から帰ってくる地球では約7倍の時間が流れている。この特殊相対性理論の特質を日本では「ウラシマ効果」と称し、タイムトラベルの解説などに用いられる。したがって浦島伝説はシータ波から感覚外知覚が覚醒し、異次元空間を旅した人物の実話が原作になっている、そして文脈を分かりやすい言語に編纂したものであると確信する。

未来への時間旅行は「ウラシマ

効果」を利用する。高速で宇宙旅行して自分の時間を遅らせれば、【未来】の地球に戻ってくる事ができる「ウラシマ効果」とは、おとぎ話の「浦島太郎」と「光速と時間遅延」の理論を掛け合わせた造語である。体外離脱し、一時間過去の世界に戻った森田健氏の体験は「ウラシマ効果」と確信する。



#### 第四六四回関西日本サイ 科学会研究集会報告

歌声の効用 健康につながる声の力

講師 河邊敦子氏

(関西歌劇団理事)

森本まどか氏

(関西歌劇団正団員、音声訓練士)

\*PF 田中実子氏

(ピアノリスト)

日時 令和4年2月19日(土)  
会場 まつむし音楽堂(2F)

世間には〇〇教室や〇〇食品など多彩な健康商品が溢れています。が、今回の研究集会は、だれにもある身体の一部で基本的なコミュニケーション作業を受け持つ「声」に着目しました。講師は関西歌劇団の現役ソプラノ歌手で、素晴らしい歌声も堪能できました。

神代から「和歌」や「祝詞(のりと)」が存在してきましたし、さらに「声明(しょうみょう)」や「民謡」、「歌劇」や「歌謡曲」に至るまで、「歌声」は人々の生活と密着、文字がない時代からさまざまな交信、交流の主役を担ってきました。身近すぎて、今更「声の効用」などとおっしゃるかもしれません。が、「声」が全身に及ぼすはたらきを知ることがはけつして無駄ではありません。「声」を出すにはさまざまな臓器や感覚器官の連携が必要ですが、とくに「横隔膜」のはたらきは重要です。意識して「声」を使うことで全身的な健康効果が期待され、したがって保健薬は少なくて済むようです。

質疑応答では、気功法などで伝授される「丹田呼吸」と「腹式呼吸」の違いについての質問もあり

ました。腹式呼吸は、自律神経が集まる臓器「横隔膜」を随意的に動かすことで「肺」の容積を拡張するものですが、丹田呼吸は横隔膜をさらに押し上げるための呼吸法です。遠方からの参加者の皆さんから高度な質問もあり、さながら音大大学院のセミナーのような雰囲気でも盛り上がりました。

(和田記)



#### 第四六五回関西サイ 科学会研究集会報告

脳波と超能力 脳波とESPやPK現象を脳波で説明する

講師 志賀一雅氏

(脳力開発研究所 相談役)

日時 令和4年3月19日(土)  
会場 阿倍王子神社参集殿(2F)

ESPやPK現象を發揮している人の脳波を測ると、複雑な信号の中に「8Hz」のスローアルファ

波や13.5Hzのファストアルファ波のスペクトルが目立ちます。もちろん10Hz中心のミッドアルファ波も観察されますが、なぜかESPやPK現象を引き起こしているときには10Hzは抑制されているようです。被験者は主に清田益章氏ですが、確認の意味でほかのエスパーにも協力いただいているとのこと。

講演では前半は実際に計測した脳波と分析した結果について、後半は計測された脳波とバンアレン帯からのプラズマ振動で発生する電磁波との関わりについて語られました。ロシアのトムスクにある宇宙監視センターから報告されている空間の電磁波と脳波とがそっくりなのはなぜかについても論じられ、さらに免疫力向上のためのトレーニングについても紹介されました。たとえば睡眠前に息を吸いながら「よかった」、吐きながら「ありがとう」を繰り返すといったトレーニングです。

ESPやPKの発現は、空間の電磁波との共鳴があるかもしれません。脳波についても、左右の大腦の波形がコヒーレントに(干渉なく)一致しています。

志賀一雅氏のプロフィール

日本において最初に脳波の「アルファ波」を3種類に分け、ファーストα波、ミッドα波、スローα波と質的な違いを提唱した。

1961年電気通信大学卒業後、松下技研に勤務。東京大学工学部計数工学科研究員を兼務しながら、脳波研究に没頭。83年脳力開発研究所設立。パソコンを利用した脳波分析装置を開発し、大学や企業の研究所へ提供。アルファ波を指標としたメンタルトレーニング指導で、日本航空、日本IBM、NTTなど、大手企業の脳力開発研修において高い評価を得る。

2008・2009年文部科学省より委託を受け「専門学校教職員、学生のためのメンタルヘルス・脳力開発プログラム」を開発、その後、学校や企業に向けての「メンタルウェルネストレーニング推進プロジェクト」を総合監修。

著書は「全身の疲れがスッキリ取れる本(三笠書房)」など多数。2011年3月に米国HHS(米国保険社会福祉省)大統領諮問機関より、長年にわたる脳波とメンタルトレーニングの研究、実践に対しGOLD AWARD(金賞)

を授与される。2015年にはステージ3の大腸がんを克服し現在もさまざまな研究と講演活動を実施している。



サイの広場第1号(1983年6月発行)アーカイブ

※図らずも今回のゴープ・クリシユナ師の言葉は現在の世界情勢を予言しているかのようです。またその解決法も述べておられます。

### 印度旅行のみやげ話Ⅲ

藤倉啓次郎

ゴープ・クリシユナ師のメッセージ

世界の将来について、日本の友へわれわれすべてが強く望んでいることは、幸福、自由、平和、調和、裕福、慰安、冒険、ロマンス、それにわれわれ自身についての知識である。これらは通常の人間の欲望であり熱望である。そして人間の心に深く植付けられたもので、いつかは実現されねばならない。

人は己の遺伝や希望や思想を実現するために生まれて来る。貧困者もなく餓死者もなくするために、彼は裕福でなければならぬ。常に楽しく朗らかであるためには、彼は平穏調和幸福をもたらさねばならない。子孫を得るためには彼はロマンスをもたねばならない。子孫をもたなければ人類は終わりである。彼は他の世界を発見するために冒険しなければならぬ。更に彼は創造計画をもつことになり、そうして彼は常に冒険を切望することだろう。

このように未来の世界においては、われわれは裕福、平和、調和、冒険、ロマンスをもたねばならないが、これらはすべて人間をより高い性質とするに好ましいものである。

不調和で不均衡な世界をつくるものは人間自身である。彼は権力欲と財産欲をもっている。権力欲人間と貪欲人間の二種類が地球上に不安定をもたらすのである。それがなかったら、人は非常に幸福で平和な生活ができるような知識、科学、芸術の段階に達していたであろう。世界に困難を起し

ているのは、一方の手に富への欲望を他方の手に権力欲をもつ一族である。

平和か戦争か、それは人間の内在する本性の結果である。そうでなければ天は人間に戦争を試みはしない。戦争を招くのは人間自身である。彼は飢えており、貪欲であり、野心家であり、世界を支配しようとし、世界において最も強力で卓越した国にしようとするからである。正しく道理的な観点にたてば、それ以外の何物も、共に生きようとする人類の邪魔にはならない。

この調和と一つのまとまりとしての生き方を私たちは印度でもっている。多くの言葉、多くの階級、多くの宗教が、印度では隣り合って平和に生活している。

われらの隣人を自分自身のように愛すれば全世界は平和に生活できる。われらが欲しい物を他に与えるならば、この地上に戦争が起きるわけではない。

これらの教えは今から二千年も前からある。これらの教えは神が示したのである。その狙いは人類に次の警告を与えるためである。

それは人間が自然の力をコントロールしようとする時、もし人間が自分自身を訓練できないならば、人間を抹殺するような段階に至るだろうということである。

仏教徒であろうと、ヒンドウ教徒であろうと、キリスト教徒であろうと、他の宗教徒であろうと、それぞれの運命法則に従うならば人間はもっと慈悲深く、もっと高尚であり、もっと平和を愛し、もっと調和するであろう。

しかし予言者の忠告に反し、彼等はただ富める者に従って行動した。彼等は教会に行った。彼等は儀式を行った。彼等は快楽を追った。しかし偉大なる予言者の教えを決して実行しなかった。彼等は嘘をつき、高慢を続け権力欲を続けて、彼等自身の変身を考えない。その結果はご覧の通りである。それは知的には強いが道徳的には弱い。人類の長い進展のあとを見ると、知的には高くなったが、道徳的には二千年前と同様である。

戦争が起ころうが起ころまいが、天の狙いは満たされるだろう。人間は協力し、人類一致し、より調和し、より平和となり、よ

り幸福となり、より均衡し、人々は互恵平等に生きるだろう。貧富の差は少なくなり、強弱の差も少なくなるだろう。これが造物主の努力していることである。

いま現在ではわれわれのすべての注意、すべての関心は、少数者に、財物に、知能に向けられている。そして多数者を蔑視し無視している。これは人類進化の現段階における罪悪である。

人は各々が薔薇であり蓮であり美しい花である。心して扱わなければならぬ。われわれは一人一人に注意しなければならぬ。人は銘々同じように関心をもたれなくてはならない。そうやって初めて人類は悟ったといえるのである。いまはそうではなく何れの面でも不均衡がある。

あなたが真実であり、正直であり、慈悲心があり、寛大であるならば、あなたは失敗するだろう。あなたが貪欲であり、野心があり、財物を求めようと努力するならば、あなたは裕福になり人々はあなたを尊敬するだろう。彼等は裕福を野心を権力を尊敬する。彼等は人格の高潔さを尊敬しない。造

物主の望むのは人格の高潔さで、金や銀や銅や権力の椅子ではない。

造物主の狙いは人間をより良い存在に導くことである。そうであるならば、そのための原則を守る社会だけが繁栄して、平和であり調和がとれ、幸福になるだろう。しかしその原則が無視されるなら、世界には不調和、戦争、衝突、紛争が発生するだろう。

未来の世界には調和、平和、安全、繁栄がなければならない。それは神の法則である。しかし同時に平等、均衡があり、国と国との間に、また人と人との間に愛がなければならぬ。またそこには同情と慈悲とがあり、自分自身に對すると同様に他人にも対応しなければならぬ。

未来の世界はキリスト、仏陀、クリシュナ或はモハメッドの教えに従わなくてはならない。それはいま世界に行なわれているよりももっとも強くである。

そうすれば、われらが夢みる未来はより美しくより明るい世界になるだろう。それはあなたも病後に食欲が回復するようなものだ。

病气から回復すると、食欲がよくなり、明るく健康に見えるものがある。

同じ様に戦争のあとでも、人類はより幸福な、より安全な、より平和な、心の状態になるだろう。われわれは現在の危機に惑わされてはならない。危機は長くは続かない。危機は造物主が人間を正しく方向づけるために、その顔に平手打を与えたようなものだ。

(終わり)

註。ゴープ・クリシュナ師には約二〇種の著書があるが、そのうち次の二冊の邦訳がある。

◎中島巖訳「クンダリニー」

平河出版

◎新津兼義訳「熱核戦争の脅威」  
たま出版

※最近出版された次の邦訳書にも、ゴープ・クリシュナ師のクンダリニーについての論説が紹介されている。

◎J・Wホワイト著、川村悦郎訳  
「クンダリニーとは何か」

めるくまー社

故 関英男先生のサイ関係 (+  $\alpha$ ) の主要な御著書 (在庫のあるもの)

	定価	送料
加速教育法 (1990:加速学園出版部) . . . . .	2,100 円	(300 円)
加速学習法 (1995:加速学園出版部) . . . . .	2,550 円	(200 円)
サイ科学の全貌 (1991:工作舎) . . . . .	1,995 円	(200 円)
グラビトニックス (2000:加速学園出版部) . . . . .	1,000 円	(160 円)
念波 (1990:加速学園出版部) . . . . .	800 円	(160 円)
CD:生命と宇宙 [講演録 72 分] (1998:船井メディア) . . . . .	3,000 円	(160 円)
謎のオズマ計画 - UFO との関連 - (1976:USL) . . . . .	190 円	(160 円)
FIVE DIMENSIONAL WORLD (1974:英語版) . . . . .	1,000 円	(160 円)

※「深宇宙探訪記」は大幅に値下げ致しました。

以下オスカー・マゴッチ著、関英男先生監修

深宇宙探訪記 (上) (1991:加速学園出版部) . . . . .	1,000 円	(200 円)
深宇宙探訪記 (中) (1992:加速学園出版部) . . . . .	1,000 円	(200 円)
深宇宙探訪記 (下) (1992:加速学園出版部) . . . . .	1,000 円	(200 円)
VHS ビデオ:オスカー・マゴッチ氏の講演 (2h40m) . . . . .	3,000 円	(200 円)
VHS ビデオ:ティモシー・ワイリー氏の講演 (2h45m) . . . . .	3,000 円	(200 円)

※ビデオは日本語逐次通訳付きです。

お問合せ、御注文は先に下記の E-mail、または FAX 宛にお願い致します。

その際、書籍名と送り先の郵便番号、住所、氏名、電話番号もご記入願います。

ご返事で送料を含めた代金やお振り込み方法等のご連絡を致します。

※正式な御注文から 2 週間以内に発送致します。

※1 種類で沢山の部数を御注文の場合は、事前に在庫を下記の E-mail または FAX で確認して頂いてから、お願い致します。

※以上の書籍は今後増刷がありませんので、在庫が無くなりましたら、ご容赦願います。

< お問い合わせ >

日本サイ科学会事務局 〒 271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町 41-506

E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

FAX 047-330-4091

## 本部例会ビデオ映像販売のお知らせ

ハイビジョン映像・音声ファイル(約3時間)を記録したUSBメモリーでお送りしますので、ほとんどのデスクトップあるいはノート型のウインドウズ・パソコンで見ることが出来ます。

価格 1件につき 二五〇〇円  
(送料含む)

※御注文はメールまたはFAXで左記に掲載のメールアドレス(またはFAX番号)に、「20※※年〇月〇〇〇〇氏ビデオ購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。2週間以内に発送致します。

office21@psij.mail-box.ne.jp  
FAX 0477-330-4091

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みただければ、結構です。

以下のビデオ映像から、御注文願います。

- ◎2015年5月本部例会  
講師 水華氏「君を見放したりはしない―宇宙神技点描画家―水華の世界(ヒカルランド)」  
講師 上部一馬氏
- ◎2015年6月本部例会  
「巨大地震を1週間前につかめ」  
講師 末武信宏氏
- ◎2015年7月本部例会  
「先端アンチエイジング医療&超人を生む自律神経の開発」  
講師 飛沢誠一氏
- ◎2015年9月本部例会  
「見えない世界の情報を如何に活用するか?」  
講師 山田欽子氏
- ◎2015年10月第25回全国大会  
「あなたの人生が楽しくなるインド占星術」  
講師 坪井香讓氏
- ◎2015年11月本部例会  
「あの世と多次元世界」  
講師 野性と靈性・ヒトの原点  
「直立二足歩行」から問う」  
講師 佐々木茂美様
- ◎2016年2月本部例会  
講師 正木晃氏  
「靈魂觀の現在」  
講師 沖田祐美子氏
- ◎2016年4月本部例会  
「神々の謎」  
講師 河野貴美子氏
- ◎2016年5月本部例会  
「意識、無意識、そして潜在能力を脳の観点からどこまで解明できるか?」  
講師 エスパイ・小林氏
- ◎2016年6月本部例会  
「運」がつく人「靈」が憑く人  
講師 志賀一雅氏
- ◎2016年9月本部例会  
「78Hzのスローα波の驚異」  
創立40周年記念大会  
講師 志賀一雅氏
- ◎2016年10月  
「78Hzのスローα波の驚異」  
講師 志賀一雅氏
- ◎2016年12月本部例会  
「藤枝流健康増進法」  
講師 藤枝伸二氏
- ◎2017年2月本部例会  
「私たちの存在の本質について、波動的、物質的視点から考える」  
講師 秋山佳胤氏
- ◎2017年4月本部例会  
「子供達の出産前の記憶が教えてくれること」  
講師 池川明氏
- ◎2017年6月本部例会  
「自分も知らない自分と出会う―夢のチカラ」  
講師 小林敦氏
- ◎2017年9月本部例会  
「人類の存亡を分けるもの」  
講師 石川允朗氏
- ◎2017年10月第26回全国大会  
「健康で長生きすることを科学的と心霊的、そしてSWIIについての実演」  
講師 篠浦伸禎氏
- ◎2017年10月第26回全国大会  
「AIを乗り越えるのは? AI「人工知能」vs PSI「サイ能力」」  
講師 篠浦伸禎氏
- ◎2017年12月本部例会  
「覚醒下手術から始まる統合医療」  
講師 七沢智樹氏、杉山彰氏
- ◎2018年2月本部例会  
「ロゴストロンシステムが拓く未来」  
講師 苗鉄軍氏
- ◎2018年4月本部例会  
「オーブ研究の現状報告」
- ◎2018年6月本部例会

自由度の制限)。

(その2) 外気を放出させ、体外に意識体を造る。

目隠しをして、外部を見る事を試みる(ASCの儘)。すると、脳の無意識層から視覚を持った「気」が体外に放出される。これを、(1) 体外にある真オーブ(依り代)に付着させて、意識体を形成させる。(2) ASC下にある能力者の意識の指示により、体外に有る意識体(ある程度は物質化されている)は、願いを叶える為の努力(念写続行)を継続する。(3) 福来先生は、念写の「念」は、願いをを持ったエネルギーである、とした。

これは、(4) 体外に、見えない人がいる、つまり、願いは意識、エネルギーは肉体を意味している。この時の意識は、ASC下での制限された意識(物質化)である。また(5) 「念」、「気」は、実験によると、近赤外線領域(活性化エネルギー、1.38 eV)に潜在して

いるので非可視である。

(6) 今から約110年前の福来先生の頃は、二元論が主流であった。-----、つまり、形而上学としての意識は、物質ではないので、計測できない「科学では扱えない」、と考えられていた。-----しかし、(7) 今では、量子論(科学)でも心(意識)を扱う様になってきた。

以上を、「念写」の方法を用いた「意識の物質化」とよぶ。

(8) 念写とは、心の中で思い浮かべた文字や絵を、遮光状態にしてあるフィルムの上に映し出す、というもので、1910年に福来友吉博士によって発見された。それから108年後、私たちは、以上の方法を用いて、動的な念写の実験に成功している(2018年)。能力者は佐藤禎花先生(女史)。夜の上空に、三日月型の月のオーブ念写像の動的変化の連続撮影に成功している。

講師 由井寅子氏

「体・心・魂を三位一体で治療に導く未来の医学『ZENホメオパシー』」

◎2018年7月本部例会

講師 清水浦安氏

愛宕なみ氏

「天界に帰還した中村天風先生が今の日本人に伝えたいこと」

◎2018年9月本部例会

講師 秋山真人氏

「40年余の宇宙文明コンタクトから判ってきたこと、異星人と意識」

◎2018年10月第27回全国大会

シンポジウムテーマ「水と健康」

◎2019年2月本部例会

講師 東中川徹氏

「エビジェネティクスとは何か？」

◎2019年4月本部例会

講師 佐々木茂美氏

佐藤禎花氏 苗鉄軍氏

「オーブ研究の最近について」

◎2019年6月本部例会

講師 小久保秀之氏

「マイクロPK現象の発生メカニズムについて」

◎2019年9月本部例会

講師 志賀一雅氏

「脳波とバンアレン帯との共鳴に

ついて」

◎2019年10月第28回全国大会

シンポジウムテーマ

「スピリチュアル・ヒーリング」

◎2020年2月本部例会

講師 アマナ(呉清恵)氏

「カタカムナ潜在物理」を基にした生命創造の基礎構造(仮説)による意識体ゼロ化を可能にするヒーリングメソッド」

◎2020年9月本部例会

講師 山崎正男氏

「多能性幹意識の誘導による超能力の覚醒とシター波の脳波(iPT意識)」

◎2020年10月第29回全国大会

シンポジウムテーマ「サイと免疫力」ガン・ウイルスとの闘いも含めて」

◎2021年10月創立45周年記念大会

シンポジウムテーマ「サイと瞑想」

◎2021年12月本部例会

講師 志賀一雅氏

「ESPやPK現象を脳波で解明する！」

◎2022年4月本部例会

講師 浪平博人氏

「生命現象発生の数理仮説」

くだろう。

ところで、「サイ科学」の先駆者ともいえる故井村宏次氏（「サイテクノロジー；工作舎」の著者、生体エネルギー研究所長）は、社団法人生命科学振興会研究助成論文「言霊の解明とセラピーへの応用」の共同執筆者であり、また世界的ダウザー、故ビル・コックス氏を日本に招くなど「サイ科学」の前進に大きく寄与した。

関西日本サイ科学会で開講した「ビル・コックス メモリアルKPSダウジング講座」（和田高幸講師）には、のべ200人を超える受講者が参加したが、現在はオンラインで系統的にダウジング技術を習得できるシステムとなっている。だれでも、いつでも参加できるといった便利さがあるので「テレワーク時代にピッタリ」と好評だ。なお、KPSダウジング講座に一度でも参加した人であれば、受講料（BASIC・ADVANCED通しで140,000円＝カメロン・オーラメーター共）が50%引きになるという大きな特典があるのでお見逃しなく。お問合せは、電話（06-6624-0559）またはFAX（06-6624-5061）で関西日本サイ科学会事務局（まつむし音楽堂）へ。

この講座の特徴は、感覚器官のトレーニングに主眼を置いていることだが、ダウジングはいわゆる「超能力」（ESP；Extra Sensory Perception）ではない。「ESP」は、五感（五官の感覚器官）を超えた「第六感」という人もいるが、ビル・コックス氏はESPについて「Extended Sensory Perception（五官の拡張能力）」と表現している。

「五官」には左右の脳も含まれるが、つまり「感じる」ことを鍛えれば、ダウジングはだれにでも可能なテクニックなのだ。「何を探すか」。ダウジングにおいては、まずターゲットの絞り込みとイメージの描き方もたいせつである。

※オンライン ダウジング講座の概要を添付します。

●ビル・コックス メモリアル

F&Wダウジングスクール（オンライン）

・BASICコース 2021年11月開講

・ADVANCEDコース 2022年3月開講

BASICコース

- 1) 「ダウジング」で何ができるか
- 2) まず「感じて」みよう
- 3) ダウジングで使う器具と持ち方
- 4) YESとNOのプログラム（左右脳と二元論）
- 5) ターゲティングとイメージング（何を探すか）

ADVANCEDコース

- 1) 形のエネルギー < AURA図を描いてみよう >
- 2) 形や物質の放射エネルギーをいかに感じるか
- 3) 左右脳の領域を拡張するには < 情報量UPと異次元の情報入手 >
- 4) 「当てもの」と「直観」 < 品質評価のテクニック >
- 5) マップ（フォト）ダウジングの方法と演習 < 地震断層、身体疾患など >

※詳細は関西日本サイ科学会のホームページをご参照願います。

## 「念写」の方法による「意識の物質化」

栗田 慶祐

（その1）予め準備をする。

（1）オーブ現象の再現性、-----「水スプレー法」を用いる事により、オーブの出現率を、約1/50から約1/3に変化させる。-----再現

性の確保（科学として必要）。

（2）呼吸法などを用いて脳波を下げて（7～8Hz）ASC（変性意識状態）に入り、願いを継続しながら意識を物質に近づける（脳活動の



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行  
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp  
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

## 「サイ科学(会)との出会い」を振り返って ～ UFOからダウジングへ ～

関西日本サイ科学会会長 和田 高幸

わたしが日本サイ科学会(旧PS学会)へ入会した動機は、生駒山の尾根沿(つた)いを低速で音もなく飛行する「空飛ぶ円盤」(当時は「UFO」という言葉がなかったので「円盤」が一般的な名称であった)と至近距離で遭遇(1974)したことで並々ならぬ好奇心が芽生えたからである。

「大阪科学技術センター」の一室で開かれるPS学会(大阪)の研究集会に参加したのは1976年頃だったと思うが、当時事務局は木村六郎氏の長女、木村のり子さんが仕切っていた。2017年頃亡くなられてから新しく事務局を組織。アンケートにより参加者の属性などを調べ、新たにホームページを立ち上げた。その後、スタッフたちが仕事や健康上の理由で去ったため事務局が分解、会長のわたしが事務を引き継いだというのがこれまでの経過である。

松下の音響研究所におられた木村氏の長男でドラム奏者、陽一氏が研究集会の講師を務める(2018)など木村家とのご縁は続いているとはいうものの関西サイ科学会の財政は苦しい。会場の変更もさることながら、オンライン配信の実験(2022/3/27)など、専ら経費をいかに落として収益をあげるか試行錯誤している最中だ。「学会」としての出版事業は東京本部マターだが、サイ科学研究の方向付け、現会員の維持、研究集会や分科会参加者の増加など課題は少なくない。

当初から研究集会は故木村六郎氏が進行、炊飯器などの家電、エレキギターや低周波治療器など多数の発明で知られる故政木和三氏(阪大工学部工作センター長)が毎回参加されていたことが印象に残っている。

さて、UFOとの接近遭遇を契機として噴き出した科学探求心により長年かかわってきたサイ科学会であるが、研究集会への参加という点ではわたしには数十年という大きなブランクがある。本業(産経新聞社勤務)が忙しかったということもあるが、つまりは心の余裕がなかったのかもしれない。会長に就任(2019)してからは実務面での処理時間を必要とした。行き届かないが、作業の効率化を図るため従来はハガキで通知していた研究集会の案内は電子メールに切り換え、HP上での参加通知を促進した。高齢化する参加者には多少(2017)の戸惑いもあろうかと思われたが、デジタル化は時の流れであった。

とはいえ、UFO関連の拙著読者であるUFOリサーチャーたちと再会したり、また旧知の研究者に研究集会の講師を依頼することもあり、サイ科学会を通じてわたしの脳が少しずつ整理されていくというメリットも出てきたのでありがたく存じている。UFO、あるいはその現象の背後にある存在については近未来にほぼ解明されるだろうが、「サイ現象」の探求には人や組織が必要だ。この点において、世間ではサイ科学会の存在に一目置